

1  
今月のニュース  
2011オーストラリアGB選手権大会  
日本、中国を含む23チームが参加



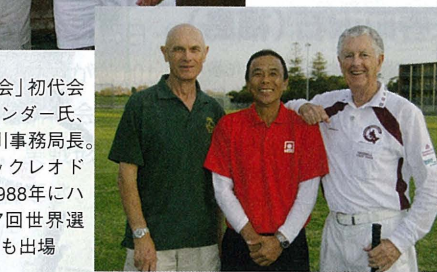
左から、「GB・オーストラリア」事務局長のギロン・スミス氏、今年から新会長となったロビン・ウォレス氏、元会長のマックス・マレー氏、前団体「GB推進協会」初代事務局長のキース・マックレオド氏



→左から、「GB推進協会」初代会長のピーター・タヴェンダー氏、(財)日本GB連合の今川事務局長。タヴェンダー氏とマックレオド氏(右端)の両人は、1988年にハワイで開催された第7回世界選手権大会に選手としても出場



開会式であいさつをするニューキャッスル市議会議員のティム・オーエン氏



日本各地から参加した日本チームの皆さん

**今** 大会は9月16日(金)～18日(日)に、シドニーから車で2時間半ほど北上した海辺の街・ニューキャッスル市で開催されました。参加したのは日本1、中国3、オーストラリア19の計23チーム。初日は公開練習日で夕方から開会式とウェルカムパーティーが開かれました。2日目はリーグ戦、最終日に残りのリーグ戦とトーナメント戦が行われた結果、中国の「重慶」が優勝しました。オーストラリアの技術レベルは年々上がっており、大会中は日本チームのゲームを熱心に見学する姿が多く見られ、「緻密な戦略が観られて勉強になった」との声も聞かれました。オーストラリアには1986年にGBが初普及され、オーストラリア・クロッカー協会の中に「GB推進協会」が誕生。2009年には「GB・オーストラリア」に協会名が変更されました。今大会でその間の普及貢献者が勢揃いしたことは、GBがオーストラリア国内で、スポーツの1種目として認知され、多くの人々に愛好されてきた証しといえるでしょう。

高校生チームが大会史上初の参加

大会史上初となる高校生チームが首都キャンベラ市から参戦しました。生徒総数が約70人という小さい学校でチームを編成し、世界選手権大会でもおなじみのキャンベラチームが毎週末に指導をしています。その練習の成果が現れ、日本チームとの対戦でも1点差の惜敗と健闘しました。



キャンベラから初参加した高校生チーム

技術レベルが高く、日本チームとも互角に戦っていた

中国チームが優勝！  
日本を含むアジア勢がベスト4を独占

2007年の本大会でも中国が優勝しましたが、今大会にも中国から強豪3チームが出場し、昨年、上海での第10回世界選手権大会でベスト4を独占した中国が実力を発揮。中国3チームは、ベスト4を日本とともに占め、中国の技術レベルの高さを披露しました。



優勝した重慶チーム

準決勝で、優勝した重慶と日本が激突！重慶が1点差で勝利した(後攻が重慶)



↑中国門球協会の古橋主任(左から3人目)をはじめ、北京や上海から協会関係者が多く駆けつけた



アイデアいっぱいの  
手づくり感覚の大会運営

斬新な企画とアイデアがいっぱいの大会運営の一部を紹介！このほかにも、1ドルの寄付くじを募って抽選で賞金を出したり、参加チームにプロカメラマンによる記念写真を贈呈するなど、大会運営の参考になるアイデアが随所に見られました。



大がかりな大会案内看板は制作せず、写真のような統一ロゴを使用した各種看板・パンナー・チラシを制作して低予算の運営に努めていた



得点ボードもご覧のようなシンプル手づくり



各チームに無償提供された、洗練されたデザインの主将腕章



審判員の携帯品であるスケールも、DIY店で購入してきたというヘラのような道具を代用していた



参加者全員に配布された大会ロゴ入りのペットボトル。名前を記入し、大会期間中はこれに給水して使用。海外らしいエコ感覚が垣間見られた